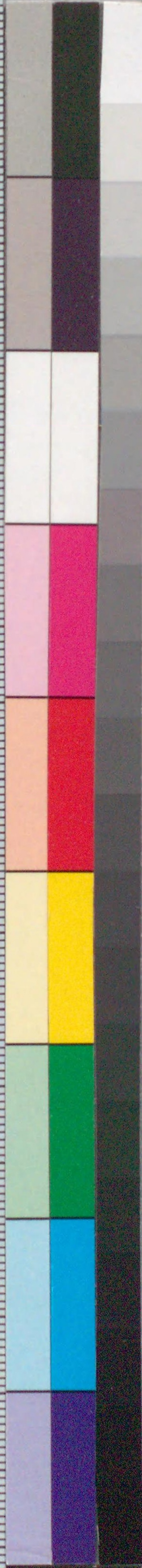


鼻下長物語

北尾重政
其之全交作

三馬
所撰
名作
其三部
之内

207
277



国立国会図書館 鼻下長物語 : 3巻 207-277

ガラス使用



終つてのついでに
 形容花景唇動
 鼻下長
 物語
 作者
 板元通油町
 次郎



寛政四年出版





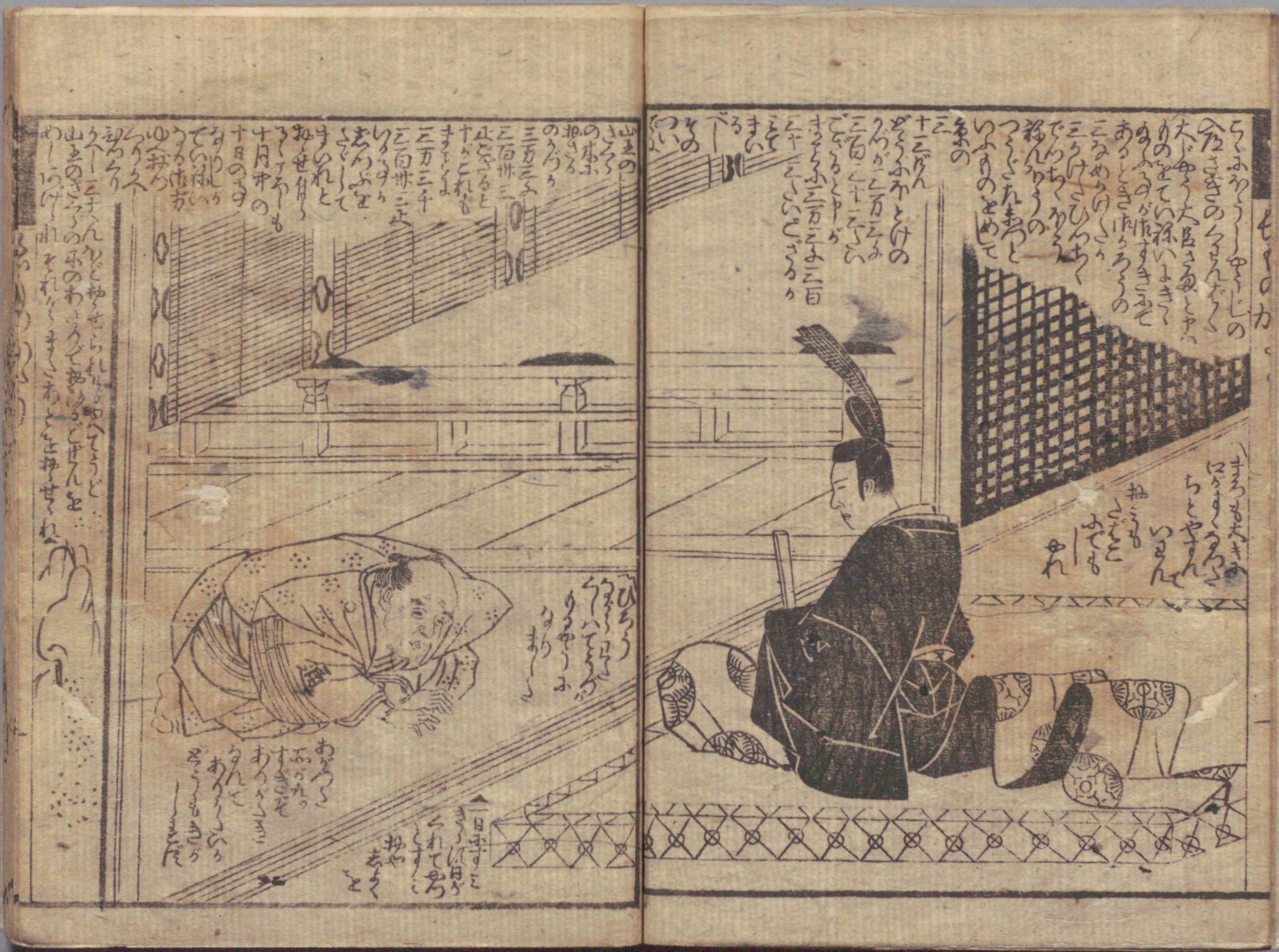
序

人短勿言我長勿說物以口唇寒一唇の唇
 とて為の好句まされども此止坊が虫を儲けし
 笑ひて二百損をたらふ伎うて世の能婦うハ
 不然何ぞも短洗我侍口と致て狐筆の口を打
 空也上人の流也
 食履のあふもいあんもき迎長崎うも亦飯のまき
 赤福も不説短き迎福半へ百が糶と術し唾も不言
 中程のまき千歳の齢を保通家の羽織のまき永代乃
 不徳ひやいあふ流りまきい力か付しわいし云

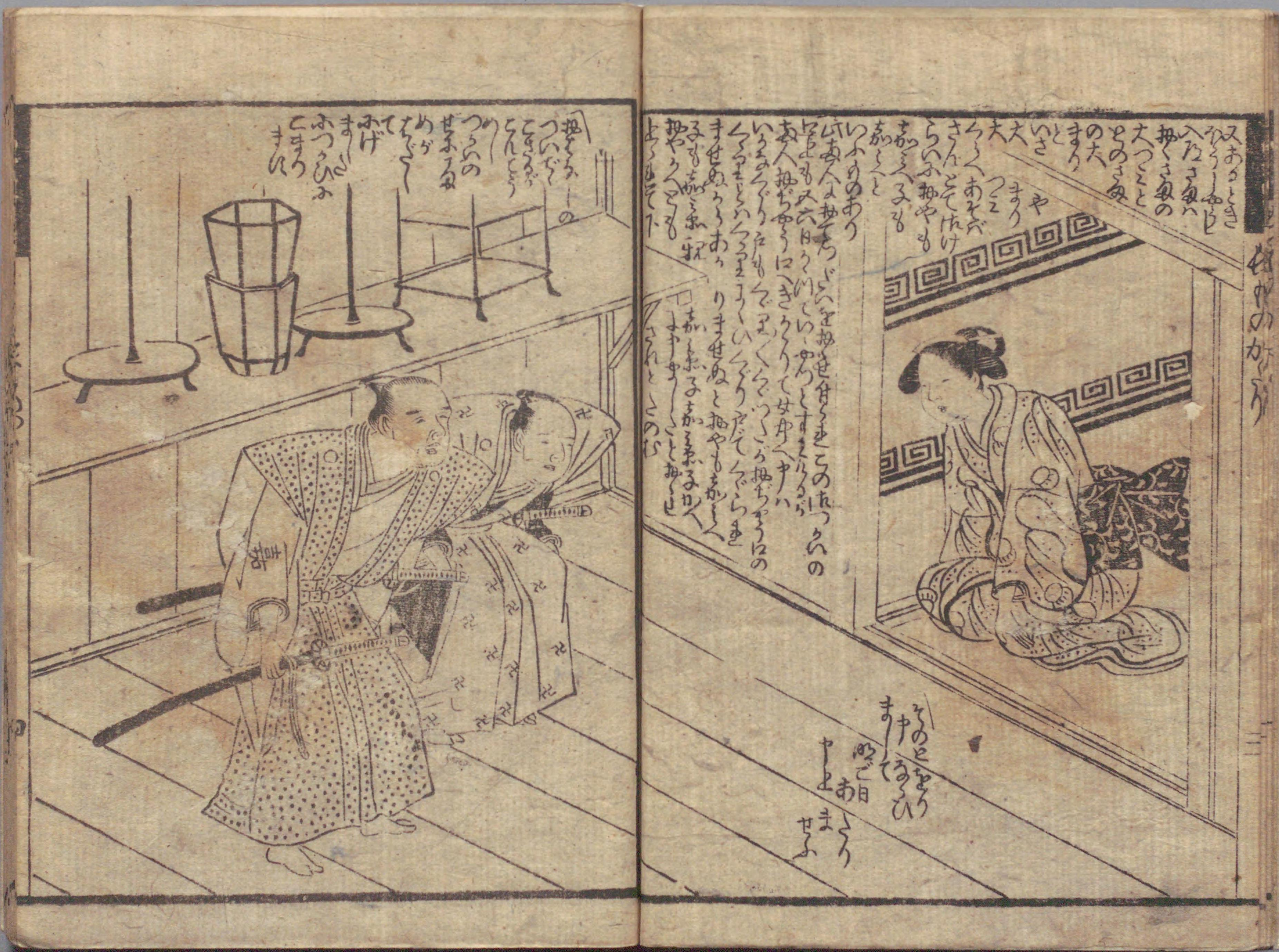
女子の初春

題 艾全文



















あつふふとこ
とあがきつて
あふこせ
めいこせ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ

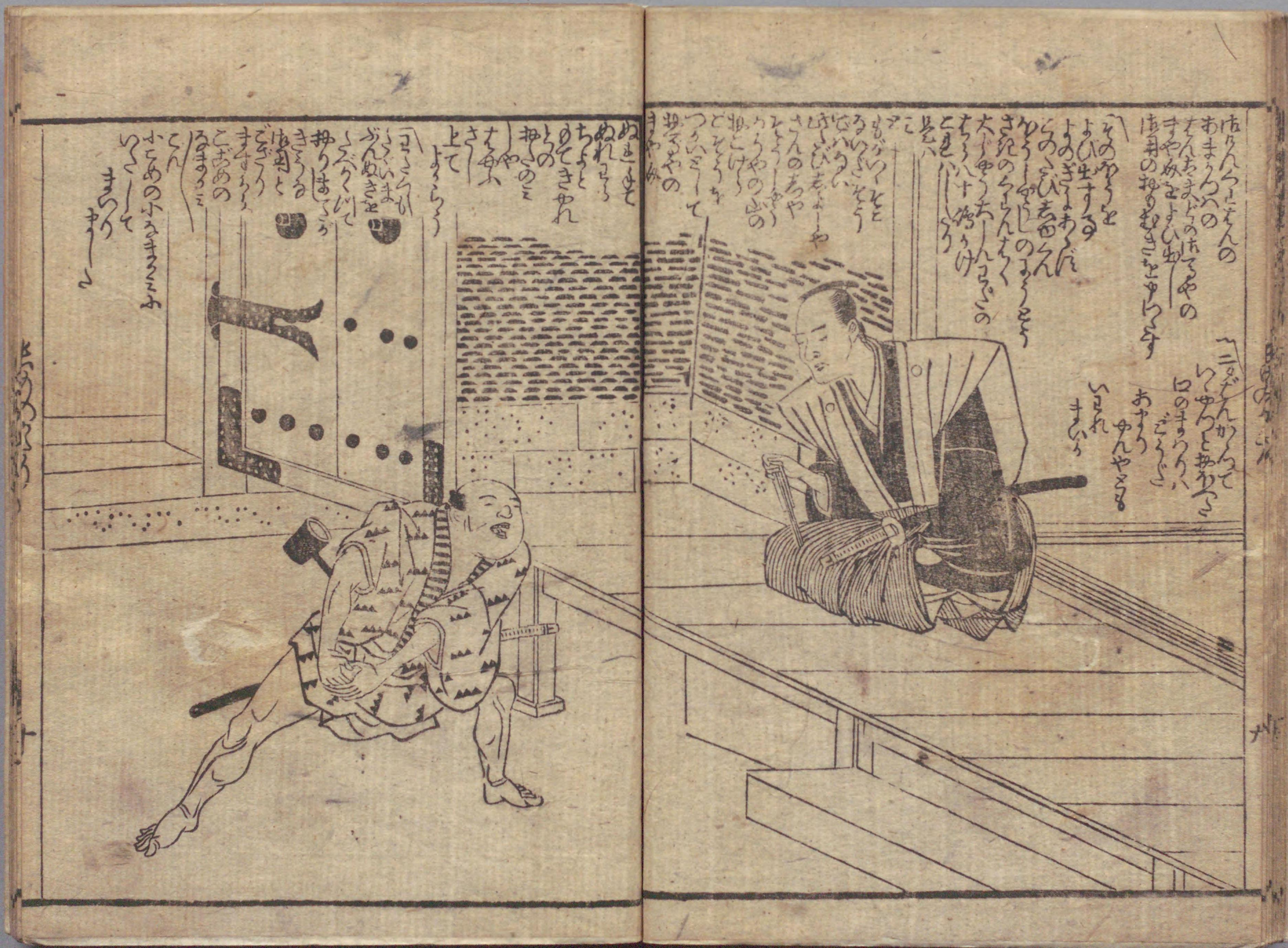
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ

あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ

あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ

あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ
あつふふとこ







おうさあのおおはらうはいつつこのあ
 りまふもむらうひさうだうり
 びつていつく二日や三日をいらいち
 「おうさあのおおはらうはいつつこのあ
 りまふもむらうひさうだうり
 びつていつく二日や三日をいらいち
 ぶんごやうがまう
 カアトが



押さのまるぬ
 むれでぬれうら
 ちよとめ
 まかれのち月を
 押せけられらうが
 まやぬたうつまらき
 うらめのおで
 るのまう
 ことまか
 左の手
 ひろい
 びろい
 めり
 りつ
 らちあう
 けり
 人のま
 まか
 せん
 馬のま

ひろい
 そい
 ろう
 大はら







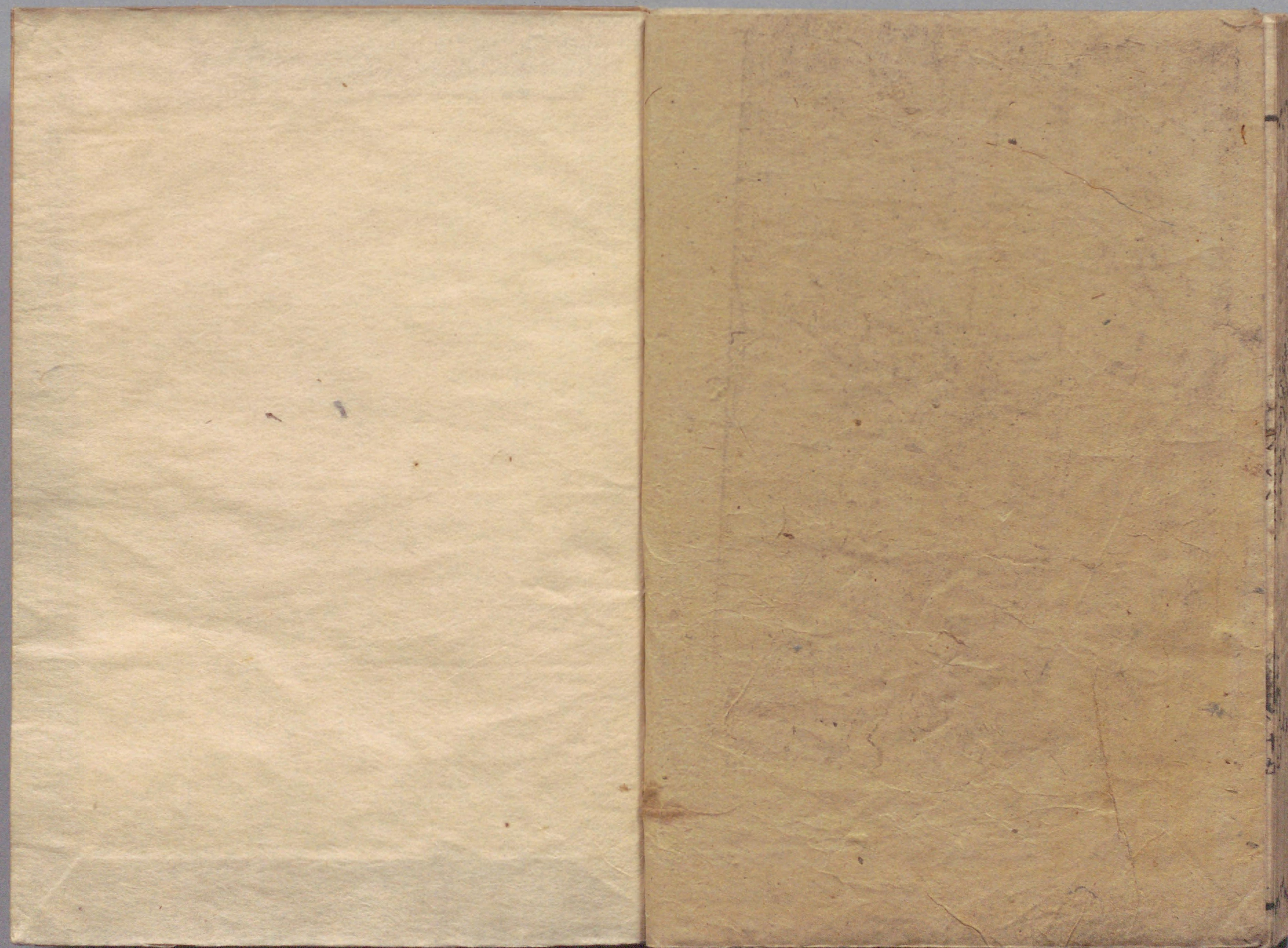
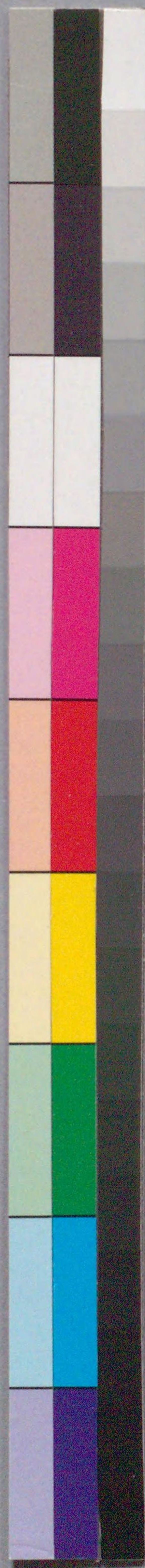






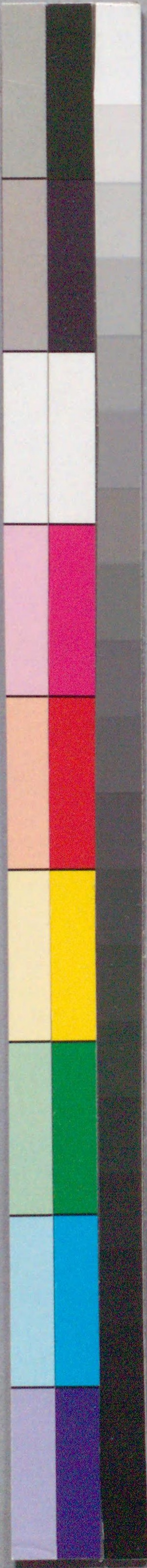
芝全交戯作





国立国会図書館 鼻下長物語：3巻 207-277

ガラス使用



国立国会図書館 鼻下長物語：3巻 207-277



ガラス使用

